

## 2016年度学院留学 研究成果概要

種 別：学院留学（長期／短期）  
所属・職・氏名：国際学部・准教授・尹 盛熙  
研究課題：言語における情報伝達の効率化に関する研究－省略と縮約現象について  
留学期間：2016年3月19日～2016年9月18日  
留学先：アメリカ、ニューヨーク  
コロンビア大学

## 研究成果概要

**研究の背景**

今回の留学では、アメリカのコロンビア大学にて「言語における情報伝達の効率化」というテーマに関する研究を行った。特に、「省略・縮約」という、言語表現の一部を省いてより短い形式にする現象についての理解を深めるべく、英語データの観察と関連知識の蓄積を行うことを目的とした。

言語を通して情報を伝える上での「効率」を、「最小の形式に最大の情報を盛り込むこと」であると考えたら、それを実現する省略・縮約は、優先順位が低いと判断した情報を可能な限り省くことで、情報伝達を効率よく行おうとする言語行動であるといえる。発話をただ切り捨てて短くするだけでなく、欠落部分を補う何らかの仕組みが働き、それが情報伝達の効率をさらに高めたりする点は興味深い。省略・縮約ほどの言語でも行われるものと考えられるが、その現れ方は一様ではなく、個別言語が持つ構造的・意味的特性に大きく影響される。例えば、日本語と韓国語の対照研究においては、日韓語のように類似した構造を持つとされる言語同士でも、発話の中で「何が省かれて何が残るか」は異なる様相を見せており、英語もまた、独自の特徴をもつものと考えられる。

**研究内容及び成果の詳細**

今回の留学では、上記の現象における英語データの観察と記述を行い、これまでに取り組んできた日韓の対照研究に英語のデータを加えることで、分析の幅を広げることを目指した。そのために、現地で収集できる省略・縮約関連の言語データや関連文献を調べる作業を重点的に行った。また、北米圏で開かれる学会に参加し、本テーマに関する国外の研究動向を把握するとともに、他の研究者との情報交換も行った。以下、作業の具体的な内容である。

## ①英語データの収集

省略と縮約の現象は、語・句・文・談話など、言語の様々なレベルで現れるものである。そのため、多様なテキストから省略・縮約の諸現象に関わる英語のデータを集めることに努めた。具体的には、テレビコマーシャルと街中の広告文、博物館や美術館などの展示スペースに用いられる案内文など、時間的・空間的な制約を持つタイプのテキストを重点的に集めた。

## ②データの観察と分析

上記のデータを言語単位別に分け、どのような現象や特徴が見られるか、観察と記述を行った。また、日本語及び韓国語の現象と比べることで、どの言語レベルにおいて類似した現象、あるいは異なる現象が見られるか、突き合わせる作業を行った。そこから得られた知見なども加え、すでに確保していた日韓のデータを中心とした分析を深め、結果を論文の形にまとめた。

## ③関連文献の収集

日本に知られているもの以外に、現地で入手可能な文献を集めた。特に重要文献として目録に入れていたものを、ほぼ入手することができた。コロンビア大学は所蔵文献が非常に充実していたので、ほとんどのものはそこで入手できたが、一部のものは議会図書館やハーバード大学など、近隣の研究機関を訪問して入手した。特に「Harvard Studies in Korean Linguistics」は、Harvard University における韓国語研究の様々な業績を集めた貴重なものであるにもかかわらず日本の大学では入手が困難だったが、今回の留学でアメリカにおける韓国語研究の流れを知ることができた。

## ④現地の研究者との交流

本テーマは、今後も日本で研究を続けていく予定であり、研究遂行に備えて協力を得られるような研究者を確保することも重要である。留学中、北米地域で行われる学会への参加などを通して、関連するテーマの研究者と情報交換を行うことができた。

## 成果の活用について

これまでの分析内容を基に、2016年度中の学会発表と投稿を予定している。同時に、収集した文献の分析内容に照らし合わせ、収集データとの整合性を確認し、英語話者にも確認を取りながら、現象の種類とその詳細を整理する予定である。2016年度から科研費の「現代日本語と韓国語の省略現象に関する対照研究—言語構造的特徴の解明を目指して—」という研究に分担者として取り組んでいるが、その研究の普遍性を強化するため、今回のデータや研究成果を活用する。また、今回の留学では言語学と関連の深い分野である心理学や文化研究などの研究者とも交流ができたので、そのような研究者を今後日本に招き、研究上の情報交換のみならず、学生に有意義な情報提供ができる機会も設ける予定である。

<終>